

## 現状の課題

- ・教職員が英語指導を行うことに大きな不安を抱えている。
- ・児童が英語に対する抵抗感を感じている。(英語は難しいと感じている。)

## 具体の取組の内容

- ・大学との連携→長崎県立大山崎祐一教授(以下 山崎教授)の指導案検討会への招聘
- ・Classroom Englishの定着 →学習指導案の工夫(定着を図りたいフレーズを指導案に追記する)  
→山崎教授の著書「先生のための 授業で1番よく使う英会話」の全職員への配布、活用
- ・異文化を知るコーナーの設置(山崎教授の指導)  
→毎授業開始時のALTによる「Fun Fact Time」  
→Altによる廊下掲示「Jordan's English Corner」
- ・教材研究の負担軽減→既存の教材を活用(学習指導案・ワークシート など)



山崎教授の著書  
「先生のための  
授業で1番よく使う英  
会話」



ALTによる  
「Fun Fact Time」

## 成果①

児童の変容(アンケート調査による)

- ・ 英語の授業で楽しいと思うことは
  - ・ 書くこと 26人→44人
  - ・ 話すこと 49人→61人
  - ・ ALTと話すこと 34人→52人

毎授業開始時のALTによる「Fun Fact Time」を導入することで、児童が異文化に対する興味関心を高めることができた。そのことが、多くの児童の英語に対する児童の不安感や抵抗感を払拭することができ、授業に対する積極的な参加へとつながっている。

## 成果②

教師の変容(アンケート調査による)

- ・ 英語の授業を行う上で不安がある 11人→5人
- ・ 保護者に英語の取組について情報を提供している 4人→10人
- ・ ALTを活用しているか 4人→11人
- ・ 教材の活用(複数回答) 18人→28人

研修や情報共有を通して、英語指導への不安が和らいだ。また、日本語が通じるALTと打ち合わせができるようになり、以前より授業者の意図が反映できるようになった。

## 今後の課題・方向性

- ・ 多くの児童が英語に対する抵抗感を払拭することができた一方、「英語は好きですか」に対して、「どちらかと言えばきらい・きらい(16人→28人)」と回答し2極化が進んでいることが伺える。原因の究明と改善策を講じる必要がある。
- ・ 評価の方法の一つとして「振り返りシート」を活用している教師が増加したことは良い傾向であるが、作成自体は負担となっている。校内研修で、役割分担や共通したテンプレート等を導入して充実させていきたい。
- ・ 今後も大学や中学との連携を密にし、教師の指導力向上を図る。